

ポルトガル語の過去分詞

— 規則形と不規則形

彌 永 史 郎

〈Sumário〉

Há um grupo de verbos abundantes que possuem participio duplo, com uma forma regular e outra irregular. Conforme a gramática prescritiva, a forma regular utiliza-se na voz ativa com os auxiliares *ter* e *haver*, e a irregular na voz passiva com o auxiliar *ser*. Verificamos, no entanto, que a norma nem sempre está vigente no uso, sendo que até pode dar a impressão de que a aludida regra caiu parcialmente em desuso.

O presente trabalho visa esclarecer a realidade do emprego dos participios duplos dentro dos corpora linguísticos, analisando estatisticamente a sua distribuição. Tendo sido escolhidos 14 verbos abundantes (Tabela 1 e 2 da adenda, pp. 27-28), analisou-se a distribuição dos dois participios nos corpora das duas variantes, a europeia e a brasileira. Estabelecendo um Índice de Norma com variação de -100 a +100, cujo valor, quanto mais próximo de +100 se mostra mais conforme a norma, sendo completamente desviado desta se tiver o valor -100.

Através deste estudo, chegou-se à conclusão de que a regra normativa está em via de ficar obsoleta, visto que a maioria dos verbos abundantes não a segue. Uma vez que cada verbo abundante mostra a sua própria tendência de uso de participios, a solução mais fidedigna consiste na pesquisa dos corpora, cujos resultados se encontram sintetizados nas Tabelas 13 (PE) e 14 (PB) do presente trabalho.

I. 動詞と過去分詞

ポルトガル語の動詞には規則的な過去分詞に加えて不規則な過去分詞をもつものがある。規則的な過去分詞については以下の表に示す通り、派生の方法は語根に幹母音を介して接尾辞 «-do» を付加する。

表 1

	不定詞	派生方法	規則形過去分詞
第 1 活用動詞	estimar	estim+a+do	estimado
第 2 活用動詞	vender	vend+i+do	vendido
第 3 活用動詞	partir	part+i+do	partido

いっぽう以下の表2にみられるように不規則形の過去分詞を持つ動詞が数多く存在し、また相当数の動詞が表3にみられるように規則形と不規則形のふたつの過去分詞をもっている。たとえば以下のような動詞は二通りの過去分詞をもっている。

表2

不定詞	不規則形過去分詞
abrir	aberto
dizer	dito
ver	visto

表3

不定詞	規則形過去分詞	不規則形過去分詞
eleger	elegido	eleito
pagar	pagado	pago
prender	prendido	preso

以上、過去分詞の形式を基準にすると動詞は以下の3とおりに分類される。

- ① 規則形過去分詞のみを持つ (estimar, vender, partir, etc.)
- ② 不規則形過去分詞のみを持つ (abrir, dizer, ver, etc.)
- ③ 規則形過去分詞と不規則形過去分詞を持つ (eleger, pagar, prender, etc.)

このように3とおりに分類される過去分詞に焦点をあててみると、過去分詞にかんする情報は通常は辞書などに形態的情報として示されるのみで多くの場合実態が明瞭ではないことに気づく。本稿ではとりわけ第三の範疇、すなわち二様の過去分詞、いわゆる二重過去分詞 (participio duplo) を持つ動詞に焦点を当てて実態をコーパスを用いて実証的に考察する。

II. 過去分詞の規則形と不規則形

(1) 伝統的規範と使用の実態

原則的には動詞が規則形と不規則形のふたつの過去分詞を持つ場合、過去分詞の規則形は能動態、すなわち複合形 (ter/haver+p.p.) において用いられ、不規則形はそのほかの叙述動詞も含め受動態において用いられると言われる¹⁾。わかりやすく表で示せば以下の表4となる (○印は組み合わせ可能、×印は不可能であることを示す)。

表4

能動態 (ter/haver+p.p.)		受動態 (ser+p.p.)	
規則形	不規則形	規則形	不規則形
○	×	×	○

しかしながら実際は必ずしも規範通りではなく動詞によりさまざまであるため、二重過去分詞の用法に関しては以下の3通りの場合がある。

① 規範どおりの例

たとえば以下の動詞 «submergir» の過去分詞の規則形と不規則形を含む(1), (2)において典型的である²⁾。

- (1) Já no passado dia 27, a Associação de Regantes e Beneficiários do Vale do Lis emitira um ofício alertando o Instituto de Estruturas Agrárias e do Desenvolvimento Rural para o facto de a água **ter submergido** os blocos I e II da Orla Hidroagrícola, próximo da localidade da Carreira, no concelho de Leiria.
- (2) O ministro esteve na Câmara de Mourão e na Aldeia da Luz, que **será submersa** pela barragem.

② 能動態・受動態ともに規則形を用いる場合

しかしながら、ある種の動詞は不規則形過去分詞は叙述動詞との結びつきについては «ser» 動詞と共に構成される受動文のほか「静的受動文」において «estar», «ficar» と共に用いられると言われる³⁾。たとえば Duarte (2013: 443) は動詞 «descalçar» について過去分詞不規則形 «descalço» が形容詞として範疇化された結果 «A criança está *descalça*.» という静的受動文を産み、いっぽう受動文では過去分詞の不規則形ではなく規則形を用いて «A criança foi *descalçada* pelo pai.» とすると述べている⁴⁾。

すなわちふたつの過去分詞を持つ動詞 «descalçar» について、受動態は不規則形とではなく規則形と結びつくという、規範的に言われているのとは逆の状況を言っている。これはむしろ二重過去分詞のうちある段階で不規則形過去分詞が過去分詞の性質を失い完全に形容詞化した状況でもはやこの動詞 «descalçar» は不規則形過去分詞を持っていないと考える方が合理的である。Duarte は能動態における使用例は挙げていないがコーパス上ではわずかに 1 例以下の例(3)が見られる。この例は能動態に過去分詞規則形を用いる規範どおりの例である。

- (3) Por outro lado, se tivessem tentado, antes do golpe, conquistar o apoio de amplos sectores do PCUS (que acabou por ser apanhado de surpresa e primar pela ausência), é provável que **tivessem descalçado** as luvas.

③ 能動態・受動態ともに不規則形を用いる場合

そのいっぽうで、動詞によっては特に能動態について前掲の①の場合とは逆に規範から大きく逸脱する場合もある⁵⁾。たとえば PE のコーパス内における «aceitar» の能動態と受動態の規則形、不規則形の分布は以下の表 5, 6 のようになる⁶⁾。

表 5

	過去分詞	実数	割合 (%)
ter+	aceite	1016	74.816
	aceitado	340	25.037
	aceito	2	0.147
合計		1358	100.000

表 6

	過去分詞	実数	割合 (%)
ser+	aceite	3451	99.826
	aceito	5	0.005
	aceitado	1	0.001
合計		3457	100.000

表の分布から明らかな通り、動詞「aceitar」は揺れがありながらも規範に反して能動態(4)で過去分詞の不規則形「aceite」を用いるケースが圧倒的な多数(75%)である。しかし能動態の約25%が規則形を用いる点も看過出来ない(5)。いっぽう受動態は規範通り安定してほぼ100%の例で不規則形が用いられている(6)。以下に典型的な例を挙げる⁷⁾。

- (4) Segundo a agência TASS, o presidente soviético **terá aceite** o convite «com satisfação».
- (5) Por outro lado, defendeu que não se encontra provada a acusação de que os suíços **teriam aceitado** ouro roubado pelos alemães na Bélgica.
- (6) Para os restantes países, o texto francês só poderá **ser aceite** com algumas alterações que, de acordo com alguns diplomatas europeus, desequilibram o seu conjunto.

以上の考察から二重過去分詞の用法は概ね以下の表7に示す3通りであることがわかる。しかしながら、実態は表7で示すほど単純明快な分布を示しておらず、規則形、不規則形の分布は動詞によって極めてまちまちである。規範文法と実際との乖離がこれほどになれば、標準的な文語において何を規則とすべきかということが大きな問題として浮かび上がって来る⁸⁾。当然の事ながら母語話者にとってもこの使い分けは大きな関心事である。いわゆる「言葉の相談室」として知られる Ciberdúvida da Língua Portuguesa (<https://ciberduvidas.iscte-iul.pt/>) でもこの問題を巡っての質問がいくつも寄せられている。

表 7

	能動態 (ter/haver+p.p.)		受動態 (ser+p.p.)	
	規則形	不規則形	規則形	不規則形
①	○	×	×	○
②	○	×	○	×
③	×	○	×	○

(2) 態と二重過去分詞

こうした相当に混沌とした状態に対して、伝統的基準に加えていくらかの個別的な考察を加えた例はさまざまな学者の記述に見えるが、全体的に態と二重過去分詞の組み合わせについて踏み込んだ記述は稀である。そのなかで Bechara (2000: 229) が 35 の動詞について示す一覧表は注目に値する (本論末, p. 27., Tabela 1 参照)。例として 3 動詞のみを引用する。

表 8

動詞	過去分詞規則形	能動・受動	過去分詞不規則形	能動・受動
entregar	entregado	a, p	entregue	p
salvar	salvado	a, p	salvo	a, p
isentar	isentado	a	isento	p

a: voz ativa (ter/haver+p.p.). p: voz passiva (ser+p.p.)

この記述は規則形・不規則形過去分詞がそれぞれ能動態・受動態とどのように組み合わせが可能かを示している点で画期的である。しかしながらこの表は Bechara の言語直観に基づいていると思われ、組み合わせの可能性が示されているものの実際の傾向、あるいはある態において規則形・不規則形両方が可能な場合はどちらかがより標準的かなどの情報は欠落している。

そこで、実際に PE, PB 両方の傾向を実証的に見るため、両方の言語変種の比較が可能なコーパス, Coleção CHAVE v. 6.4 を用いて上掲の表 8 のうちで傾向がはっきり示されている動詞 «isentar» について考察する⁹⁾。

(3) 二重過去分詞の実態

動詞 «isentar» の過去分詞に関してコーパスから得られた実数は以下の表 9 のとおりであり、受動態に関しては僅かな揺れがあるものの、ほぼ Bechara の示したとおりの規範に準ずる結果が得られる¹⁰⁾。また能動態については得られた件数が僅かとはいえ規範通り規則形が用いられている。

表 9

	能動態 (ter/haver+p.p.)			受動態 (ser+p.p.)	
	isentado	isento		isentado	isento
PE	2	0	PE	6	171
PB	1 (1)	0	PB	6	86

同様にして Bechara の示したいいわゆる二重過去分詞に関してコーパス上で検証してみると、きわめて複雑な実態が明らかになる¹¹⁾。たとえば本論末 Tabela 1 (p. 27) で通し番号 13 の動詞 «limpar» に関して言えば、Bechara の言語直観と実態とは大きく異なる (表 10)。Bechara によれば規則形 «limpado» は能動態、受動態両方と組み合わせ可能とされているにもかかわらず、コーパス上では PE, PB どちらにもこの種の組み合わせの例が見られない。そもそも能動態の例が少なく不規則形の «limpo» の能動態における組み合わせ例は PB には見当たらず、PE でわずかに 4 例見られるだけである。この結果からは «limpado» が現代ポルトガル語では能動態でも受動態でも用いられず過去分詞としてはすでに廃れ不規則形に収斂したかのように映る。いっばう不規則形の «limpo» が少なくとも PE では能動態でも受動態でも組み合わせが可能ということが実証されるのである。

表 10

freq.	infinitivo	p.p. regular	voz	PE/ PB	ter (haver)	ser	p.p. irregular	voz	PE/ PB	ter (haver)	ser
769	limpar	limpado	a p	PE	0	0	limpo	a p	PE	4	105
				PB	0	0			PB	0	58

しかしながら «ser+limpo» の種類の例は(7)(8)のような明らかな受動態の例とともに多くの(9)の類いの単なる形容詞としての «limpo/limpa» の叙述を含むので、受動態との識別は必ずしも容易とは言えない。

- (7) *par=PUB940701-491*: O grande salão de festas **foi limpo** por um batalhão de empregados até ficar a brilhar.
- (8) *par=FSP940319-422*: A fachada ornada da catedral, cujas torres têm 75 metros de altura, **foi limpa** pela última vez na década de 60.
- (9) *par=PUB950630-973*: Mostrou-se indignado, nunca fora kamanguista, a sua vida **era limpa** como um papel virgem.

このような実情に配慮し、本論末 Tabela 2 にある 14 動詞を本稿における考察対象とした。いっばう PE と PB のコーパスそれぞれの規模の違いもあるため、コーパスから得られた実数は両者で大きく異なる場合も多い。したがって過去分詞の用法の傾向とともに PE, PB の傾向の違いを見るには総数に対する割合で考察するのが適当である。分かり易い例で以下動詞 «prender» と «gastar» の実態を検証してみよう。

以下の表 11 に引用したとおり、本論末の Tabela 3-1 & 3-2 (p. 29-30) の能動態の列に注目すると、規範文法の示す典型的な例が動詞 «prender» (頻度順 8 位: Tabela 3-2) である。つ

表11 (Tabela 3-1, 3-2より引用)

Freq. PE/PB infinitivo	número de casos				por cento			
	V. Ativa(ter/haver+pp)		V. Passiva(ser+pp)		V. Ativa(ter/haver+pp)		V. Passiva(ser+pp)	
	REG.	IRREG.	REG.	IRREG.	REG.	IRREG.	REG.	IRREG.
8 PE prender	prendido 24	preso 1	prendido 0	preso 1664	prendido 96	preso 4	prendido 0	preso 100
8 PB prender	prendido 44	preso 0	prendido 0	preso 2868	prendido 100	preso 0	prendido 0	preso 100
11 PE gastar	gastado 0	gasto 136	gastado 0	gasto 364	gastado 0	gasto 100	gastado 0	gasto 100
11 PB gastar	gastado 4	gasto 82	gastado 0	gasto 470	gastado 4.65	gasto 95.35	gastado 0	gasto 100

まり能動態では過去分詞の規則形がほぼ100%で不規則形は0%、その逆に受動態では規則形が0%で不規則形がほぼ100%と、全体としてまったく揺れがないと言って良いほど規範に準じている。これは規範文法の教えるとおりでである。

他方規範文法の教えるところとは大きく異なる例が動詞「gastar」(頻度順11位:Tabela 3-1)である。能動態でも受動態でも不規則形「gasto」がほぼ100%、規則形「gastado」はどちらの態においても殆ど0%を示し、要するに「gastado」は既に廃れた形式と言ってよい。つまり能動態では規範の逆、受動態では規範どおりである。現代ポルトガル語では動詞「gastar」の過去分詞規則形「gastado」は既に廃れ二種の過去分詞は不規則形「gasto」に収斂してしまったことがわかる。

Ⅲ. 規範との乖離の程度

(1) 規範指数

伝統的規範を中心に据えてみると、上記で扱ったような完全に規範通りの場合、完全に規範に反する場合とともに規範からの逸脱あるいは乖離の程度がさまざまであることがわかる。その乖離の程度を可視化することは出来ないであろうか¹²⁾。

ここで本論末補遺の Tabela 3-1 (p. 29) において能動態における過去分詞規則形の使用の割合 (A) と不規則形の使用の割合 (B) に注目すると、その差、すなわち A-B の値は 100 から -100 まで可変であることがわかる。また A=B=50% ならばその差はゼロとなる。たまたま A=B=50% の例を求めると、動詞「imprimir」があることがわかる。すなわち、この A-B の値が 100 に近ければ近いほど規範に準じており、規範からの逸脱が半数あればゼロとなる。マイナス 100 となると規範とまったく逆ということになる。

同様に受動態の列における値に注目すれば、規範と見なされる規則形の割合 (C) から規範か

らの逸脱と見なされる不規則形の割合 (D) を減じた値 (C-D) は能動態におけると同様 100 からマイナス 100 までの可変値で、値が高いほど規範に準拠する傾向が強く、値が低ければそれだけ規範から離れていることになる。

ここで、能動態と受動態との場合を分けるため、それぞれに「能動態規範指数」(Índice de Norma da Voz Ativa - INVA) と「受動態規範指数」(Índice de Norma da Voz Passiva - INVP) と呼びで区別する。

能動態規範指数 $100 \geq \text{INVA} \geq -100$

受動態規範指数 $100 \geq \text{INVP} \geq -100$

それぞれの指数は値が 100 に近づくほど規範 (norma) に近く、値が -100 に近づくほど規範からの乖離 (desvio) の程度が大きいくということになる。規範・乖離と指数の関係を図示すると以下の図のようになる (図 1)。

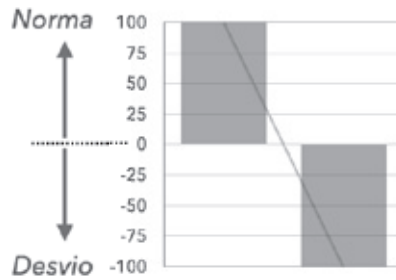


図 1

(2) 規範指数に基づく考察：PE と PB

先に定義した規範指数にもとづき、Bechara の説の検証というかたちで過去分詞の実際の用法を考察してみたい。Bechara のリストのうち 13 動詞の規範指数を基準に比較すると興味深い事実が見られる (本稿末補遺 Tabela 4-9, p. 31-34)。これをまとめたのが以下の表 12 である。

表 12

	INVA/INVP	Valor ≥ 0	Valor = 100	Tabela
PE	INVA	6/14 verbos (43%)	1 verbo (8%)	4
	INVP	14/14 verbos (100%)	4 verbos (31%)	6
	INVA & INVP	6/14 verbos (43%)	0 verbo (0%)	8

PB	INVA	6/14 verbos (43%)	4 verbos (31%)	5
	INVP	14/14 verbo (100%)	8 verbos (62%)	7
	INVA & INVP	6/14 verbos (43%)	1 verbo (7%)	9

INVA = 能動態規範指数, INVP = 受動態規範指数, IN = 規範指数

表 12 の $IN \geq 0$ の列に見られるように態と規範指数の関係は PE と PB とともに数値上は同じ割合で分布を示している。まとめると以下のとおりである。

- ① 能動態で約半数 (43%) が規範に従う ($INVA \geq 0$) (14 動詞のうち 6 動詞)
- ② 受動態では同様に $INVP \geq 0$ のケースが 100% (14 動詞のうち 14 動詞)
- ③ 能動態, 受動態ともに指数が正のものは半数弱 (43%) (14 動詞のうち 6 動詞)

より詳しくみると、完全に規範どおり、すなわち規範指数が 100 を示す動詞は極めて限られており、多くて 3 割である。表 12 で $IN = 100$ の列にあるとおり PE では能動態, 受動態ともに規範指数が 100 の動詞はひとつもなく PB でも僅か 1 動詞のみである。つまり PE, PB ともに規範から大きく乖離しているが、その程度について比較すれば PB は相対的に乖離の程度が少ないと言える。しかし全体としては半数以上が規範に従っていないとすると、規範とされる規則じたいが文法規則として明示するに足りるかどうか甚だ心もとない状況であることが理解されるのである。

IV. 結 論

以上の考察から、規範文法で提唱される二重過去分詞の用法についていくつかの興味深かつ重要な実態が明らかになった。すなわち「能動態には不規則形を用い、受動態には規則形を用いる」という規範に反して実態は大きくかけ離れているということである。とりわけ二種類の指数 INVA および INVP 両方とも 100 を示す、いわば完全に規範通りの動詞は本稿で扱った比較的頻度の高い 14 動詞について見ると PE においてゼロ、PB において動詞 «prender» のみである¹³⁾。

また PE と PB を比較してみるとわれわれが概ね経験的に知っている事実が実証的に明示される点も興味深い。PE において規範との乖離が大きく進行しつつあり、PB でも同様の傾向があるにもかかわらず、PB がより規範の側に寄っているということである。

さらに具体的な傾向としては二重過去分詞をもつ動詞において、能動態ではむしろ不規則形を用いる傾向が次第に強まっており、これは我々の経験的な知識と合致している。換言すると受動態に不規則形を用いる動詞では能動態にも不規則形が用いられる傾向が強まり、この変化が不安定ながらも進行しつつあるという点である。

能動態規範指数 (INVA) で値がゼロ以上の動詞の平均値は PE で 64% であるが PB では 70%

である。このことはPBのほうが依然としてより規範の側に傾いていることを示すいっぽう、PE、PB両方で相当数の逸脱があることは今後の傾向としては次第に不規則形が能動態において優勢になっていくことを予想させる。

この種の言語変化は相対的に短い期間、おそらく数十年で漸進的に完了してしまうかもしれない。たとえば母語話者の発話で「tem pagado」という規範的な「正しい」形式で述べたあとに迷いが生じて「tem pago」と言い直すという実例が見られることがある¹⁴⁾。これは一種の過剰修正(hipercorreção)を原因のひとつと考える事ができる。二種類の形式のうちの一つを規範的文法規則にしたがって選ぶとすると、何らかの理由で迷いが生ずると話者は規則形というより簡単な形式よりも不規則形という複雑な形式を選ぶ事で迷いを解消しようとするため次第に不規則形が優勢になっていくという解釈である。実際「ter pago」について言えば母語話者のなかには二様の形式のうちどちらを採るべきかまだ迷いを感ずる世代の人もいれば、もはや迷いなく不規則形を選ぶ人もいる。通信手段が爆発的に進化しているこんにち、この種の言語変化は間違いなくかつてに比して早く進むと考えられるのである。

また受動態において不規則形を用いるという規則は大きな揺れはなく推移している。PEにおいて受動態規範指数(INVP)の値がゼロ以上の動詞でその平均値は96%でありPBでは98%を示す。そのいっぽうで能動態規範指数がゼロ以上の値を持つ場合をPE、PB両者の割合を加重平均すると70%前後であるから、受動態で過去分詞の不規則形を用いるという規則は相対的に安定した文法規則と言えよう。しかしながら歴史的には不規則形が形容詞と意識されるようになると不規則形は過去分詞としての役目を終え、能動態・受動態を問わず常に規則形が用いられるようになる場合もあると言われる¹⁵⁾。

以上のように現代ポルトガル語のコーパスより実証的に見た結果は、規範から逸脱しつつある言語変化の渦中の断面図と言えよう。それでは現状に即した文法規則はどのように記述されるべきかということが言語教育の場を踏まえると大きな問題として浮上する。結論としては以下のようにしておけば十分である。

二重過去分詞を持つ動詞では能動態で過去分詞規則形を用い受動態では過去分詞不規則形を用いるという伝統的規則がある。しかしながら以下の表に示すとおり原則に従う動詞は僅かなので動詞ごとにその傾向を知る必要がある。またPEとPBで僅かに過去分詞の形式が異なることもある。以下の表に現代ポルトガル語におけるいくつかの代表的動詞に関する二重過去分詞の実態を示す¹⁶⁾。

表 13 PE 過去分詞の用法

不定詞	能動態	受動態
aceitar	aceite	aceite
acender	acendido	aceso
eleger	eleito	eleito
expulsar	expulso	expulso
extinguir	extinguido	extinto
ganhar	ganho	ganho
gastar	gasto	gasto
imprimir	imprimido/ impresso	impresso
inserir	inserido	inserido
isentar	isentado	isento
pagar	pago	pago
prender	prendido	preso
salvar	salvo	salvo
suspender	suspendido	suspensio

表 14 PB 過去分詞の用法

不定詞	能動態	受動態
aceitar	aceito	aceito
acender	acendido	aceso
eleger	eleito	eleito
expulsar	expulsado	expulso
extinguir	extinto	extinto
ganhar	ganho	ganho
gastar	gasto	gasto
imprimir	imprimido/ impresso	impresso
inserir	inserido	inserido
isentar	isentado	isento
pagar	pago	pago
prender	prendido	preso
salvar	salvo	salvo
suspender	suspendido	suspensio

註

- 1) Cunha & Cintra (1986: 441). 伝統的にこれらの動詞は «verbo abundante» あるいは «verbo de dúpulo participio» と呼ばれる。本稿では後者にに基づきに重過去分詞という訳語を用いる。
- 2) 使用したコーパスは Cetempúblico. www.linguateca.pt 2016年5月30日取得。以下同様。
- 3) Orações passivas estativas, Duarte (2013: 443-444)
- 4) descalçado/descalço の二重過去分詞は受動態においては必ずしも使い分けが明瞭でない。インフォーマントによると(1)では規則形が望ましいが不規則形も排除しきれない、(2)は非文で規則形を用いるべきとのことである。(1) *As botas da mãe foram descalçadas/descalças por ele.* (2) **Ele tem descalço as botas da mãe.*
- 5) わずか1例のみ «ser aceita» もコーパス上で見られるが、これは規範的には「誤り」とみなされよう。*par-ext1424301-soc-95a-2: Com a legislação a aceitar a morte assistida medicamente, os holandeses procuram precisar, legalmente, quais os casos em que a eutanásia deve ou não ser aceita.*
- 6) idem, Cetempúblico. 表1, 表2にはそれぞれ «ter sido aceite», «foi bem aceite»などは含まれていない。
- 7) idem, Cetempúblico.
- 8) 日本で出版されているポルトガル語の入門書17点を調査したところ、二通りの過去分詞の用法については規範を記述し概要を解説したものが4点(24%)、不完全ながら伝統的規範の記述があるもの5点(29%)、記述のないものが8点(47%)という状況だった。全体としては重要な文法的事実にもかかわらず避けられていることがわかる。

- 9) *linguateca.pt* よりアクセス。
- 10) 表 4 能動態の PB において «1 (1)» とあるのは検索で得られた能動態の 2 例のうち助動詞が *haver* のものが 1 例であったことを示す。以下同様。
- 11) Bechara (2000: 229-230) の表には 34 動詞が含まれている (本論末 Tabela 1 p. 27 参照)。しかしながら表で不規則形の過去分詞として挙げているものには、すでに形容詞化しているもの (*enxutar—enxuto, juntar—junto, desenvolver—desenvolto, etc.*)、不規則形過去分詞が異なる動詞の過去分詞と同形になり手作業での区別が困難なもの (*matar—morto: morrer* の pp. でもある) などがあるので、これらを除外して 14 動詞を母体として考察した。Tabela 1 には除外したものに×を印してある。
- 12) 以下の指数を用いた考察に関しては同僚のモイゼース・カルヴェーリョ先生の示唆に負うところが大きい。記して御礼申し上げる。
- 13) 本稿で扱った 14 動詞は現代ポルトガル語多目的電子化語彙表 (LCMPC) の頻度順でおよそ 1,000 語以内である。詳しくは本稿末補遺の Tabela 1 の *observação* を参照。
- 14) « (...) , que ele não **terá pago** ... não **terá pagado** a totalidade da dívida.» という発話上の揺れが観察された (Constança Cunha e Sá, TVI 24, de 6 de março de 2015)。この情報は同僚のペドロ・アイレス先生の情報による。記して御礼申し上げる。
- 15) かつての不規則形過去分詞の多くがこのような過程を経て廃れたという。例えば *cinto* < *cingir*, *colheito* < *colher*, *despeso* < *despender*。形容詞として残っているものには *absoluto* < *absolver*, *resoluto* < *resolver* など。(Cunha & Cintra: 442)
- 16) PB で異なるところに網掛けをして示す。なお PE における *aceitar* の不規則形過去分詞はごく最近まで «*aceito*» であったものが 20 世紀後半に «*aceite*» に変化したものと考えられる。Prontuário Ortográfico (1975, p. 134) に以下の記述が見える。「O *particípio aceite*, conforme Cândido de Figueiredo afirma nas «Lições práticas», vol. I, cap. 2, e vol. II, cap. 59 e 115, e ainda nos «Problemas da Linguagem», vol. I, **não é vernáculo.**» (o **negrito** é nosso)

参考文献

- Bechara, Evanildo (2000) *Moderna gramática portuguesa*. Editora Lucerna.
- Castilho, Ataliba T. de (2011) *Nova gramática do português brasileiro*. Contexto.
- Cunha, C. & Cintra, L. (1986) *Nova gramática do português contemporâneo*, 6ª ed. Sá da Costa.
- Duarte, Inês (2013) *Construções ativas, passivas, incoativas e médias*. in *Gramática do Português*, vol. I, Raposo, Eduardo B. P. et al. Fundação Gulbenkian.: 295-458.
- Mateus, M.H.Mira, et al. (2003) *Gramática da Língua Portuguesa*. Editorial Caminho.
- Reis, Neves & Bergström, Magnus (1975) *Prontuário ortográfico*, 10ª ed. Empresa Nacional de Publicidade Lisboa.
- 彌永史郎 (2011) ポルトガル語四週間 大学書林。
- 彌永史郎 (2015) 複合形, ポルトガル語文法用語小辞典所収 GELP (<http://gelp.ciao.jp/GLOSSARIO/>)。
- 彌永史郎 (1986) ポルトガル語の複合過去。ロマンス語研究 19 所載 日本ロマンス語学会。
- 彌永史郎 (1992) ポルトガル語の時称 — 日本語による述語目録の統一。ANAIIS XXV. 日本ポルトガルブラジル学会。

Tabela 1

BECHARA, E. (2000) Moderna gramática portuguesa, Editora Lucerna, RJ, p.229-230

	Infinitivo	Particípio regular	voz	Particípio irregular	voz
	1 aceitar	aceitado	a p	aceito, aceite	p
×	2 assentar	assentado	a p	assento, assente	p
	3 entregar	entregado	a p	entregue	p
×	4 enxugar	enxugado	a p	enxuto	p
×	5 expressar	expressado	a p	expresso	p
	6 expulsar	expulsado	a p	expulso	p
×	7 fartar	fartado	a p	farto	p
×	8 findar	findado	a p	findo	p
	9 ganhar	ganhado	a p	ganho	a p
	10 gastar	gastado	a	gasto	a p
	11 isentar	isentado	a	isento	p
×	12 juntar	juntado	a p	junto	a p
×	13 limpar	limpado	a p	limpo	a p
×	14 matar	matado	a	morto	a p
	15 pagar	pagado	a	pago	a p
×	16 pascar	pascado	a p	pasco	p
×	17 pegar	pegado	a p	prego	p
	18 salvar	salvado	a p	salvo	p
	19 acender	acendido	a p	aceso	p
×	20 arrepender	arrependido	a p	repeço, arrepeço	a p
×	21 desenvolver	adesenvolvido	a p	desenvolto	a p
	22 eleger	elegido	a	eleito	a p
×	23 envolver	envolvido	a p	envolto	a p
	24 prender	prendido	a p	preso	p
×	25 revolver	revolvido	a p	revolto	p
	26 suspender	suspendido	a p	suspenso	p
×	27 desabrir	desabrido		desberto	
×	28 erigir	erigido	a p	erecto	p
×	29 exprimir	exprimido	a p	expresso	a p
	30 extinguir	extinguido	a p	extinto	p
×	31 frigir	frigido	a	frito	a p
	32 imprimir	imprimido	a p	impresso	a p
×	33 inserir	inserido	a p	inserto	a p
×	34 tingir	tingido	a p	tinto	p

× : verbos não incluídos na análise do presente trabalho.

Tabela 2

Participios passados regular e irregular :PE e PB

— vozes e os seus respectivos números de casos no corpo Coleção CHAVE v.6.4 (*)

ord.fq.	freq.	infinitivo	pp regular	voz	PE/ PB	ter (haver)	ser	pp irregular	voz	PE/ PB	ter (haver)	ser
1	5.183	ganhar	ganhado	a p	PE	7	1	ganho	a p	PE	834(44)	325
					PB	31(8)	0			PB	209(56)	57
2	4.388	pagar	pagado	a	PE	0	0	pago	a p	PE	328(17)	1343
					PB	2	0			PB	185(19)	1972
3	2.584	aceitar	aceitado	a p	PE	129(1)	1	aceite	p	PE	293(1)	1036
					PB	63(12)	0	aceito		PB	75(9)	730
4	2.188	entregar	entregado	a p	PE	11(1)	0	entregue	p	PE	181(4)	2126
					PB	7(2)	0			PB	74(22)	1165
5	1.976	prender	prendido	a p	PE	24	0	preso	p	PE	1	1664
					PB	44(10)	0			PB	0	2868
6	1.491	eleger	elegido	a	PE	14(2)	1	eleito	a p	PE	40(2)	2113
					PB	5(3)	0			PB	15(3)	1459
7	1.324	salvar	salvado	a p	PE	5	0	salvo	a p	PE	62(2)	178
					PB	5	0			PB	15	150
8	1.127	gastar	gastado	a	PE	0	0	gasto	a p	PE	136(1)	364
					PB	4(1)	0			PB	82(11)	470
9	743	suspender	suspensão	a p	PE	44	15	suspensão	p	PE	1	679
					PB	23	4			PB	1	665
10	661	acender	acendido	a p	PE	8(1)	2	aceso	p	PE	2	15
					PB	1	1			PB	0	24
11	429	expulsar	expulsado	a p	PE	9(1)	0	expulso	p	PE	15(1)	684
					PB	12(3)	0			PB	4	542
12	334	extinguir	extinguido	a p	PE	10	2	extinto	p	PE	1	218
					PB	1	1			PB	5(1)	362
13	327	imprimir	imprimido	a p	PE	7	11	impresso	a p	PE	7	151
					PB	3	4			PB	3	81
14	177	isentar	isentado	a	PE	2	6	isento	p	PE	0	86
					PB	1	6			PB	0	171

Nota. A tabela foi editada conforme aquela publicada em Bechara (2000, p.229).

Legenda: **ord.freq** =ordem de frequência, **freq**=frequência no Lexico Multifuncional Computorizado do Português Contemporâneo, de CLUL. **ord.alf**=ordem alfabético, **voz**:a=voz ativa, p=voz passiva.

obs. O vocabulário com a frequência maior do que 177 do LMCP (a menor apresentada na tabela, do verbo *isentar*) consiste das 5.396 vocábulos, entre os quais se contam 1.093 verbos.

(*) corpo CETEMPúblico, do projeto AC/DC (Costa et al.,2009) em <http://www.linguateca.pt/ACDC/>. e corpo CETEMPúblico, do projeto AC/DC (Santos,2011) em <http://www.linguateca.pt/ACDC/>.

Tabela 3-1

Fq	PE/PB	verbo	por cento			por cento		
			V. ativa(ter/haver + pp)			V. passiva(ser+pp)		
			pp. reg.	pp. irreg.	Diferença	pp. irreg.	pp. reg.	Diferença
7	PE	aceitar	aceitado	aceite	-38.86	aceite	aceitado	99.8
			30.57	69.43		99.9	.1	
7	PB	aceitar	aceitado	aceito	-8.7	aceito	aceitado	100
			45.65	54.35		100	0	
12	PE	acender	acendido	aceso	60	aceso	acendido	76.48
			80	20		88.24	11.76	
12	PB	acender	acendido	aceso	100	aceso	acendido	92
			100	0		96	4	
9	PE	eleger	elegido	eleito	-48.14	eleito	elegido	99.9
			25.93	74.07		99.95	.05	
9	PB	eleger	elegido	eleito	-50	eleito	elegido	100
			25	75		100	0	
16	PE	expulsar	expulsado	expulso	-25	expulso	expulsado	100
			37.5	62.5		100	0	
16	PB	expulsar	expulsado	expulso	50	expulso	expulsado	100
			75	25		100	0	
17	PE	extinguir	extinguido	extinto	81.82	extinto	extinguido	98.18
			90.91	9.09		99.09	.91	
17	PB	extinguir	extinguido	extinto	-66.66	extinto	extinguido	99.44
			16.67	83.33		99.72	.28	
4	PE	ganhar	ganado	ganho	-98.34	ganho	ganado	99.38
			.83	99.17		99.69	.31	
4	PB	ganhar	ganhado	ganho	-74.16	ganho	ganhado	100
			12.92	87.08		100	0	
11	PE	gastar	gastado	gasto	-100	gasto	gastado	100
			0	100		100	0	
11	PB	gastar	gastado	gasto	-90.7	gasto	gastado	100
			4.65	95.35		100	0	
18	PE	imprimir	imprimido	impresso	0	impresso	imprimido	86.42
			50	50		93.21	6.79	
18	PB	imprimir	imprimido	impresso	0	impresso	imprimido	90.58
			50	50		95.29	4.71	
13	PE	inserir	inserido	inserto	100	inserto	inserido	-97.02
			100	0		1.49	98.51	
13	PB	inserir	inserido	inserto	100	inserto	inserido	-100
			100	0		0	100	

Tabela 3-2

Fq	PE/PB	verbo	por cento			por cento		
			V. ativa(ter/haver + pp)			V. passiva(ser+pp)		
			pp. reg.	pp. irreg.	Diferença	pp. irreg.	pp. reg.	Diferença
19	PE	isentar	isentado	isento		isento	isentado	
			100	0	100	93.48	6.52	86.96
19	PB	isentar	isentado	isento		isento	isentado	
			100	0	100	96.61	3.39	93.22
15	PE	pagar	pagado	pago		pago	pagado	
			0	100	-100	99.09	.91	98.18
15	PB	pagar	pagado	pago		pago	pagado	
			1.07	98.93	-97.86	100	0	100
8	PE	prender	prendido	preso		preso	prendido	
			96	4	92	100	0	100
8	PB	prender	prendido	preso		preso	prendido	
			100	0	100	100	0	100
10	PE	salvar	salvado	salvo		salvo	salvado	
			7.46	92.54	-85.08	100	0	100
10	PB	salvar	salvado	salvo		salvo	salvado	
			25	75	-50	100	0	100
20	PE	suspender	suspendido	suspenso		suspenso	suspendido	
			74.58	25.42	49.16	99.85	.15	99.7
20	PB	suspender	suspendido	suspenso		suspenso	suspendido	
			85.19	14.81	70.38	99.85	.15	99.7

Tabela 4 (PE, INVA \geq 0)

Fq	PE/PB	verbo	por cento			por cento			INVA & INVP Média
			V. ativa(ter/haver + pp)			V. passiva(ser+pp)			
			pp. reg.	pp. irreg.	INVA	pp. irreg.	pp. reg.	INVP	
19	PE	isentar	isentado	isento		isento	isentado		
			100	0	100	93.48	6.52	87	93.5
8	PE	prender	prendido	preso		preso	prendido		
			96	4	92	100	0	100	96
17	PE	extinguir	extinguido	extinto		extinto	extinguido		
			90.91	9.09	81.8	99.09	.91	98.2	90
12	PE	acender	acendido	aceso		aceso	acendido		
			80	20	60	88.24	11.76	76.5	68.3
20	PE	suspender	suspensado	suspensado		suspensado	suspensado		
			74.58	25.42	49.2	99.85	.15	99.7	74.5
18	PE	imprimir	imprimido	impresso		impresso	imprimido		
			50	50	0	93.21	6.79	86.4	43.2

Tabela 5 (PB, INVA \geq 0)

Fq	PE/PB	verbo	por cento			por cento			INVA & INVP Média
			V. ativa(ter/haver + pp)			V. passiva(ser+pp)			
			pp. reg.	pp. irreg.	INVA	pp. irreg.	pp. reg.	INVP	
8	PB	prender	prendido	preso		preso	prendido		
			100	0	100	100	0	100	100
19	PB	isentar	isentado	isento		isento	isentado		
			100	0	100	96.61	3.39	93.2	96.6
12	PB	acender	acendido	aceso		aceso	acendido		
			100	0	100	96	4	92	96
20	PB	suspender	suspensado	suspensado		suspensado	suspensado		
			85.19	14.81	70.4	99.85	.15	99.7	85.1
16	PB	expulsar	expulsado	expulso		expulso	expulsado		
			75	25	50	100	0	100	75
18	PB	imprimir	imprimido	impresso		impresso	imprimido		
			50	50	0	95.29	4.71	90.6	45.3

Tabela 6 (PE, INVP≥0)

Fq	PE/PB	verbo	por cento			por cento			INVA & INVP Média
			V. ativa(ter/haver + pp)			V. passiva(ser+pp)			
			pp. reg.	pp. irreg.	INVA	pp. irreg.	pp. reg.	INVP	
8	PE	prender	prendido	preso		preso	prendido		
			96	4	92	100	0	100	96
16	PE	expulsar	expulsado	expulso		expulso	expulsado		
			37.5	62.5	-25	100	0	100	37.5
10	PE	salvar	salvado	salvo		salvo	salvado		
			7.46	92.54	-85.1	100	0	100	7.5
5	PE	entregar	entregado	entregue		entregue	entregado		
			5.73	94.27	-88.5	100	0	100	5.8
11	PE	gastar	gastado	gasto		gasto	gastado		
			0	100	-100	100	0	100	0
9	PE	eleger	elegido	eleito		eleito	elegido		
			25.93	74.07	-48.1	99.95	.05	99.9	25.9
7	PE	aceitar	aceitado	aceite		aceite	aceitado		
			30.57	69.43	-38.9	99.9	.1	99.8	30.5
20	PE	suspender	suspendido	suspenso		suspenso	suspendido		
			74.58	25.42	49.2	99.85	.15	99.7	74.5
4	PE	ganhar	ganado	ganho		ganho	ganado		
			.83	99.17	-98.3	99.69	.31	99.4	.6
17	PE	extinguir	extinguido	extinto		extinto	extinguido		
			90.91	9.09	81.8	99.09	.91	98.2	90
15	PE	pagar	pagado	pago		pago	pagado		
			0	100	-100	99.09	.91	98.2	-9
19	PE	isentar	isentado	isento		isento	isentado		
			100	0	100	93.48	6.52	87	93.5
18	PE	imprimir	imprimido	impresso		impresso	imprimido		
			50	50	0	93.21	6.79	86.4	43.2
12	PE	acender	acendido	aceso		aceso	acendido		
			80	20	60	88.24	11.76	76.5	68.3

Tabela 7 (PB, INVP≥0)

Fq	PE/PB	verbo	por cento			por cento			INVA & INVP	Média		
			V. ativa(ter/haver + pp)			V. passiva(ser+pp)						
			pp. reg.	pp. irreg.	INVA	pp. irreg.	pp. reg.	INVP				
8	PB	prender	prendido	preso	100	preso	prendido	100	100	100		
16	PB	expulsar	expulsado	expulso	75	expulso	expulsado	25	100	75		
7	PB	aceitar	aceitado	aceito	45.65	aceito	aceitado	54.35	-8.7	100	45.7	
10	PB	salvar	salvado	salvo	25	salvo	salvado	75	-50	100	25	
9	PB	eleger	elegido	eleito	25	eleito	elegido	75	-50	100	25	
4	PB	ganhar	ganhado	ganho	12.92	ganho	ganhado	87.08	-74.2	100	12.9	
5	PB	entregar	entregado	entregue	8.64	entregue	entregado	91.36	-82.7	100	8.7	
11	PB	gastar	gastado	gasto	4.65	gasto	gastado	95.35	-90.7	100	4.7	
15	PB	pagar	pagado	pago	1.07	pago	pagado	98.93	-97.9	100	1.1	
20	PB	suspender	suspendido	suspenso	85.19	suspenso	suspendido	14.81	70.4	99.85	99.7	85.1
17	PB	extinguir	extinguido	extinto	16.67	extinto	extinguido	83.33	-66.7	99.72	99.4	16.4
19	PB	isentar	isentado	isento	100	isento	isentado	0	100	96.61	93.2	96.6
12	PB	acender	acendido	aceso	100	aceso	acendido	0	100	96	92	96
18	PB	imprimir	imprimido	impresso	50	impresso	imprimido	50	0	95.29	90.6	45.3

Tabela 8 (PE, INVA \geq 0 & INVP \geq 0)

Fq	PE/PB	verbo	por cento			por cento			INVA & INVP	Média
			V. ativa(ter/haver + pp)			V. passiva(ser+pp)				
8	PE	prender	pp. reg. prendido	pp. irreg. preso	INVA	pp. irreg. preso	pp. reg. prendido	INVP		
			96	4	92	100	0	100	96	
19	PE	isentar	isentado	isento		isento	isentado			
			100	0	100	93.48	6.52	87	93.5	
17	PE	extinguir	extinguido	extinto		extinto	extinguido			
			90.91	9.09	81.8	99.09	.91	98.2	90	
20	PE	suspender	suspensionado	suspensionado		suspensionado	suspensionado			
			74.58	25.42	49.2	99.85	.15	99.7	74.5	
12	PE	acender	acendido	aceso		aceso	acendido			
			80	20	60	88.24	11.76	76.5	68.3	
18	PE	imprimir	imprimido	impresso		impresso	imprimido			
			50	50	0	93.21	6.79	86.4	43.2	

Tabela 9 (PB, INVA \geq 0 & INVP \geq 0)

Fq	PE/PB	verbo	por cento			por cento			INVA & INVP	Média
			V. ativa(ter/haver + pp)			V. passiva(ser+pp)				
8	PB	prender	pp. reg. prendido	pp. irreg. preso	INVA	pp. irreg. preso	pp. reg. prendido	INVP		
			100	0	100	100	0	100	100	
19	PB	isentar	isentado	isento		isento	isentado			
			100	0	100	96.61	3.39	93.2	96.6	
12	PB	acender	acendido	aceso		aceso	acendido			
			100	0	100	96	4	92	96	
20	PB	suspender	suspensionado	suspensionado		suspensionado	suspensionado			
			85.19	14.81	70.4	99.85	.15	99.7	85.1	
16	PB	expulsar	expulsado	expulso		expulso	expulsado			
			75	25	50	100	0	100	75	
18	PB	imprimir	imprimido	impresso		impresso	imprimido			
			50	50	0	95.29	4.71	90.6	45.3	